

テーマ:

## 「凜々子」との出会いが、 活動の広がりを生み出した！

大阪府  
柏原市立  
国分幼稚園

保田 律子園長 木下 佳子教諭



### この活動の特徴



#### 「凜々子」活用のポイント①

「凜々子」の栽培を通じて、  
友達や地域との交流を深めた

#### 「凜々子」活用のポイント②

「凜々子」委員会を組織し、  
委員としての意欲や自主性を引き出した

## 活動のねらい



- トマトの栽培を通じ、愛情や思いやりの気持ちを育てる
- 親子で栽培活動に取組み、「食」に対する意識を高める

## 活動の概要と流れ

対象学年： 4, 5歳児 (75名)  
実践期間： 4～12月

時期	学習活動
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「凜々子栽培ガイドブック」を活用し、凜々子について学ぶ</li> <li>・ポリバケツと牛乳パックを使い、年少は親子で苗を植える</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の登降園時に親子で凜々子を観察した(4歳児)</li> <li>・観察画を描きため、苗の生長を記録した(5歳児)</li> </ul>
7・8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み中、全園児保護者に日替わりで凜々子当番をお願いし、世話と収穫をした</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫した凜々子をトマトジュースに加工してもらった</li> <li>・夏休み中の収穫の様子のスライドを作成し、共有</li> <li>・「凜々子委員会」を組織。ジュースのラベル作りなどをする</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育参観でトマトジュース屋さんを開店</li> <li>・レストランごっこをし、凜々子を使ったメニューを考える</li> <li>・凜々子ピザを作り、みんなで実食</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者による「凜々子クッキングクラブ」が発足</li> </ul>



## ここがポイント！ 取組の工夫と実践の成果

### 夏休み中は保護者の方に協力してもらった

「凜々子」は夏休み中に収穫シーズンを迎えるため、休みの間も栽培活動が継続できるよう、全園児の保護者に日替わりで当番を募り、親子で栽培活動をしてもらった。

毎日、収穫した「凜々子」の数量と重量を記録してもらった。その際に、園児が自分で収穫数を10個単位で数えられるように、手作り「凜々子カウンター」を作成した。また、重さの測定も園児が読み取れるように、数字で表記されるデジタル体重計を用いた。収穫の様子や感想などを共有の「凜々子日記」に記入してもらい、いつでも閲覧できるよう、園のホームページにも写真や動画を掲載した。

夏休み明けには、夏休み中の栽培・収穫記録のスライドを作成し、みんなで共有した。収穫数を視覚化させ、たくさん収穫できたことを園児に感じ取らせると共に、みんなで喜びを分かち合った。

### 収穫した「凜々子」を工場でトマトジュースに加工

収穫した1,295個、96,4kgの「凜々子」を食品加工工場に加工してもらった。本数は274本。

完成したジュースに名前をつける「なまえ部」、ラベルを作成する「ラベル部」、宣伝を行うための

「PR部」、ジュースの引き換え券を作る「チケット部」の4つの部会を立ち上げ、「凜々子委員会」活動を行った。委員は5歳児47名全員がいずれかの部に所属できるように組織した。

「なまえ部」では市販されている飲料の名前を見て、名前には意味が込められているという気づきがあった。名前を決めるときには公募という形態をとり、「りこぴんハート」「スマイルりこぴん」などさまざまな名前が集まった。最終的に「りこぴんパワー」という名前に決まった。

「ラベル部」では「りこぴんパワー」という名前にふさわしい、飲むと元気が出そうなデザイン画をみんなで作成し、5種類のラベルを作成した。

保育参観で「りこぴんパワー屋さん」を開店し、保護者にお客さんになってもらった。「世界一、おいしいジュースですよ」「風邪を引にくくなりますよ」など自分たちの言葉にして作ったキャッチフレーズをチラシに掲載したり、当日お客さんに伝えたりした。保育参観翌日には、地域老人会、未就園児、小中学校の先生方をお客さんに招いた。「りこぴんパワー」は大好評で完売となった。

### 先生から一言！ 実践を通して

園児たちは「凜々子」に対して手ごろな大きさ、光沢のある赤色、実

が堅く扱いやすいことに加え、かわいい名前に親しみを感じていました。早く栽培を始め、実物を手にしたいという思いと、収穫後のジュース作りやクッキング活動に期待感を持ち、栽培活動に取り組むことができました。

全園児で栽培したことで、保護者の方も含めた共通の話題が生まれ、一緒に生長の様子を観察する姿も見受けられました。夏休み中の栽培活動は、園児や私たち教師の想いを汲んでくださった保護者の皆さまの協力もあり、毎日継続することができました。保護者の方を巻き込んだことで、後のさまざまな活動へもつながりました。

「凜々子」が病気になってしまったときは、自分に置き換えさせることで、心配したり、対処を考えたりと、相手（「凜々子」）の立場に立って考えるという心情面の育ちがあったと思います。

5歳児はジュースを製品にするための委員会活動により、自分たちが試行錯誤したことが、形になったことへの達成感をもつことができました。

また、この「凜々子」の活動を地域の人も発信することができ、ささやかながら地域活性化のひとつにもなったのではないかと考えています。

「凜々子」との出会いは、たくさんの方の経験とパワーを園児たちに与えてくれました。

### 授賞理由



自分たちで栽培した「凜々子」を近くの工場に持ち込んでオリジナルのトマトジュースを開発したことはとても素晴らしい活動です。しかも、商品名や広告チラシも自分たち考えるなんて、トマトジュースを売っているカゴメも顔負けの活動でした。